



かつて人類は、『愛なる創造主が世界を創造し、最初の男と女を、死も病気もない完璧な美しい園に住まわせた』と信じていました。そのエデンの園では全ての動物が草食で、アダムと彼の妻エバは木の実を食べていました。

しかし、150年くらい前から、人間は創造主に創造されたのではなく、進化でできたのであり、死は自然の摂理であると教えられるようになりました。‘適者生存’、つまり‘強い者が弱いものを淘汰する’ということです。



リチャード・ドーキンス教授はこのように言っています。「…われわれはデザインもなく、目的もなく、善も悪もない無関心で無意味な世界にいる…」

しかし、聖書は全く違ったことを教えています。



「天を創造した方、すなわち神(創造主)、地を形造り、これを仕上げた方、すなわちこれを堅く立てた方、これを荒漠としたものに創造せず、人の住みかこれを形造った方…」(イザヤ 45:18)、

「神(創造主)は北を虚空に張り、地を何も無い上に掛けられる。」(ヨブ記 26:7)

もしあなたが猿のような祖先から進化した偶然の存在なら、自分でルールを決めても問題ではありません。しかし、もし創造主が世界を始め、支配しているなら、あなたにも計画と目的をもっているでしょう。誰が意図したかにかかっているのです。ルールを決めるのは創造主であり、人ではありません。そしてあなたにも計画と目的が与えられているのです。

楽園にいたアダムとエバは創造主に反逆して離れたので、この世界は呪われ、死が入りました。私たちはアダムの子孫なので、彼の罪の性質を受け継いで創造主に反逆しつづけており、死ぬ運命にあります。しかし、まだ続きがあるのです。



あるところに進化論に疑問を抱いた真面目な科学者がいました。果たして分子から人間にまで進化し得るのか？ 植物も動物も種類の中での変化はありますが、微生物が微生物学者になることはありません。大きな隔りがあります。DNA の情報量が全く違うのです。情報とは知性と意思からのみ生みだせるのであり、偶然には決してできません。

私はかつてビッグバン説と進化論を信じていました。高校で習い、それらを信じて大学に入りました。当時、私は無神論者で、大学で物理を専攻し、特に天文学と宇宙論に興味を持っていました。どのように宇宙が始まり、私たちがどこから来たのか知りたかったからです。宇宙は理解可能であるはずで、後に私はそのとおりであると分かりました。しかし、その理解は科学からではなく、聖書の啓示からでした。

私は今、オーストラリアの指導的な大学の物理学の教授です。物理学、宇宙物理学と宇宙論で多くの研究をしてきました。しかし、それらからは何も答えは得られませんでした。聖書に書かれた創造主のことばというレンズを通して宇宙を見たとき、初めてこの世界と、私たちを取り巻く宇宙について納得できたのです。



「初めに、神(創造主)が天と地を創造した」(創世記1:1) ビッグバンではなく創造主(ヘブル語で‘Yahweh’ すなわち‘自存しておられる方’という意味で、被造物ではなく、永遠に存在している)が生み出したのです。

天地創造はたった6千年くらい前になされました。創造主は通常の6日間で全世界を創造し、第7日目に休まりました。この単純な事実は私が学び、大学で教えていること全てと一切矛盾しません。過去のことは、さかのぼって検証することが不可能であるからです。

プロの科学者たちはこのことを知っています。このことが知識の障害となっていて議論を呼び起こしているのであり、宇宙論のアキレス腱となっているのです。スローン宇宙サーベイの共同設立者でプリンストン大学のジェームス・グンは、「宇宙論は科学のように見えていても、科学ではない」と述べています。「科学とは基本的に、くり返し実験して検証するのですが、宇宙論についてはそれができないからです」と。\* [強調筆者]

マイケル・ターナーはこう言っています。「物理学の目的は宇宙を支配している法則を理解することだ。しかし、宇宙論はちょっと違う。宇宙論は宇宙の歴史を再現しようとしているのだ。」、だから「宇宙論は、生物進化論や地質学のようなものであるということを研究者たちは素直に認めるべきだ」と。\* [強調筆者]

(\*Cho, A., A singular conundrum: How old is our universe?, Science 317: 1848-1850, 2007.)

プロの科学者は根本的な質問の答えが得られないので、何かを信じるしかないのです。科学がその答えを与えることはないからです。